

Jiǔ wú liàng, bù jí luàn
酒 无 量, 不 及 乱

酒は量なし、乱に及ばず 〈郷党第十〉

桜美林大学名誉教授 / 孔子学院講師 植田渥雄



孔子は『論語』の中で、「道^{みち}を謀^{はか}りて、食^{しょく}を謀^{はか}らず」〈衛霊公第十五〉と言っています。また、「食^あに飽^あくことを求^{もと}むる無し」〈学而第一〉とも言っています。いずれも君子のあり方を説いたもので、君子たる者、世の為に働くことが第一で、「食べる」ことは二の次だ、という意味です。

では孔子は食生活には無関心だったのでしょうか。必ずしもそうとは言えません。ここで言う「食」とは食事ではなく、食^{しょく}禄^{ろく}、給料のことです。暮らしの満足度、と言い換えることもできます。人の上に立つほどの者は、自分の暮らしにあまりこだわらな、というのが真意です。では食生活について、孔子はどのように考えていたのでしょうか。

次の文を見てみましょう。「食^じ不^ふ厭^{えん}精^{せい}、脍^{かい}不^ふ厭^{えん}細^{さい} (Sì bú yàn jīng, kuài bú yàn xì) (食^じは精^{せい}を厭^{いと}わず、脍^{かい}は細^{さい}を厭^{いと}わず)〈郷党第十〉。この場合の「食」は現代中国音では sì、日本音では食^じと読みます。「食^じ」とは米、麦、黍等、主食になる穀物のこと、いわゆるゴハンのことです。精^{せい}は精^{せい}げること。米ならば精米することです。脍^{かい}は細^{さい}く切^きった肉のことです。この意味は、穀物はできるだけ丹念に精^{せい}げ、肉はできるだけ丹念に細^{さい}切りにする、ということになります。

これだけ見ても孔子は、食物に無関心どころか、相当こだわっていたことが窺えます。文は続きます。「食^じ饑^き而^に餒^{がう}、魚^{うお}餒^{がう}而^に肉^{にく}敗^{たい}、不^ふ食^じ。色^{しき}悪^{あく}不^ふ食^じ、臭^{にお}悪^{あく}不^ふ食^じ (Sì yì ér ài, yú něi ér ròu bài, bù shí。 Sè è bù shí, chòu è bù shí) (食^じの饑^きして餒^{がう}し、魚^{うお}の餒^{がう}して肉^{にく}の敗^{たい}したるは、食^じらわず。色^{しき}の悪^{あく}しきは食^じらわず。臭^{にお}いの悪^{あく}しきは食^じらわず)。ゴハンの古くなったもの、魚や肉の爛^{ただ}れたもの、色の良くないもの、臭いの良くな

いものは食べない。饑^きはゴハンが古くなること、餒^{がう}は味が変^たわること、餒^{がう}は魚^{うお}が腐^たること、敗^{たい}は肉^{にく}が爛^{ただ}れること。これらの文字はいずれも賞味期限がとくに切れていることを表わします。今日の常識からすると当然のことかも知れませんが、保存法や衛生知識の不十分だった当時の状況を考えると、孔子は食生活に人一倍神経を使っていたと言えます。

文は更に続きます。「失^し飪^{じん}不^ふ食^じ、不^ふ時^{とき}不^ふ食^じ、割^{かつ}不^ふ正^{せい}、不^ふ食^じ。不^ふ得^{とく}其^き醬^{じょう}、不^ふ食^じ。肉^{にく}虽^い多^た、不^ふ使^し胜^{しょう}食^じ气^き (Shī rèn bù shí, bù shí bù shí, Gē bú zhèng, bù shí。 Bù dé qí jiàng, bù shí。 Ròu suī duō, bù shǐ shèng sì qì) (飪^{じん}を失^ういたるは食^くらわず。時^{とき}ならざるは食^くらわず。割^{かつ}の正^{せい}しからざるは、食^くらわず。其^きの醬^{じょう}を得^えざるは、食^くらわず。肉^{にく}は多^たしと雖^いも、食^じ氣^きに勝^{しょう}たしめず)。煮^に具^ぐ合^{がう}の悪^{あく}いものは食べない。時^{とき}節^{せつ}に合^あわな^あいものは食べない。調理^{ちり}法^{ぽう}の正^{せい}しくないものは食べない。タレの合^あわな^あいものは食べない。肉^{にく}は多^たくてもゴハン以上には食べない。

飪^{じん}とは煮^に具^ぐ合^{がう}のこと、時^{とき}とは旬^{じゆん}のこと、割^{かつ}とは調理^{ちり}法^{ぽう}のこと、醬^{じょう}とはタレのこと、食^じ氣^きとはゴハンの量^{りやう}のことです。孔子の食^じへのこ^こだわりも、ここまできると食^じ通^{つう}の域^{いき}に達^たしていたと言^いえるかもしれませ^せん。しかも食^じ事^じ心得^{こころえ}としては現代でも十分通用^こうじょうし^じそう^じです。では、酒^{しゆ}はど^どうだ^だったで^でしょうか。「唯^た酒^{しゆ}无^{りやう}量^{りやう}、不^ふ及^た乱^{らん} (Wéi jiǔ wú liàng bù jí luàn)」。 (唯^た酒^{しゆ}は量^{りやう}無^{りやう}し。乱^{らん}に及^たば^ばず)。酒^{しゆ}はいくらでも飲^のむが、乱^{らん}れるほどには飲^のま^まない。

さすが孔子先生、酒^{しゆ}飲^のみの心得^{こころえ}を示^しすことも、忘^われ^れては^はいませ^せんで^でした。

(わんりい「中国語で読む漢詩の会」講師)